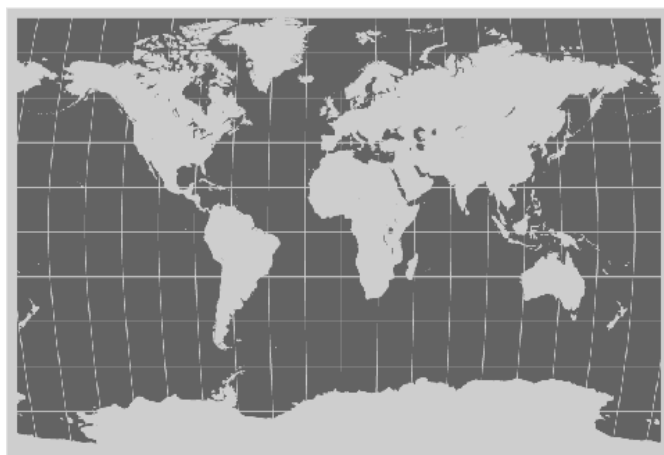




# はじめての 国際教室担当

国際教室担当マニュアル

2018年版



**NPO 法人 教育支援グループ**  
えど  
**Ed.ベンチャー**



## はじめに

この冊子は、初めて国際教室を担当される方および外国人児童生徒が在籍する学級担任の経験が少ない方が、学校の中で支援や指導をする際に、参考にさせていただこうと作成しました。

外国人児童生徒の支援活動を中核に据えつつ立ち上げられた Ed.ベンチャーに、「国際教室」を初めて担当した先生方から「何を、どのような順で、どのように進めていけばよいのか分からない、全く手探りの状態から始めている」という声が届けられたのは、今から10年ほど前になります。この声を受けて、Ed.ベンチャーで、当時の事務局長であった家上幸子氏を中心に8名の協力者を得て、『はじめての国際教室担当』を刊行し、大和市内の国際教室に冊子をお届けしました。

一昨年度から始まった「外国人の子ども理解の学習会」の講座の中で、その冊子に言及され「大変役にたっている」とのお話をうかがいました。そこで、本年度は、10年の活動の経験を加えて、改訂版を刊行することにいたしました。

外国人児童生徒の入学や編入学は、日本の児童生徒の入学や転入学の手続き、受け入れ体制と同じではありません。言語だけでなく、日常の言動まで細かい配慮を必要とします。全てに支援を行き届かせることは不可能ですが、配慮の必要性を認識することで、支援の幅が広がり、質が高まります。また、そうした配慮にはある程度の手順も必要です。

こうした入学や編入学当初の環境を整えることの他に、外国人児童生徒が学校生活を送る過程で直面する様々な課題への適切な支援も当然ながら生じます。

本冊子は、2010年版と同様に、まず、2ページに「国際教室担当が知っておくこと」と題して、箇条書きに全体像が掴めるようにしました。全体像は、大きく3つに分けられています。(1)「受け入れ体制や手続きとその手順」、(2)「学習に関すること」では、学習や日常の言動で配慮すべき事柄とそれらを伝える手順をまとめ、(3)「体制づくり」では、外国人児童生徒が日本における立場を確立するための基盤づくりをイメージしてまとめてあります。各セクションは、編入学時の対応から始まり、支援・指導の順を追うように構成してみました。状況によって前後した方が効果を生むこともあります。

私たちは、この冊子の内容を含んだ取り組みが学校で行われることを望んでいます。このことによって、学校と外国人児童生徒およびその家庭が互いに誤解を少なくしたり理解を深めたりして、外国人児童生徒がより円滑に学校生活を送ることができると思います。

この冊子は、2010年版のリニューアル版で、すぐに学校で活用できるよう検討を重ねてきました。しかし、参考にされた方は、また別の視点の考え方があろうかと思えます。是非、ご意見をいただき、今後、より深めたものを作りたいと考えています。

2018年3月31日

NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

## ■国際教室担当が知っておくこと（受入体制や手続きとその手順）

1. 国際教室の指導方針（年度初めの4月作成）
2. 国際教室の年間指導計画（年度初めの4月作成）
3. 国際教室で準備しておくの良い物の準備
  - 世界地図・日本地図・地球儀／辞書／
  - 旅の指差し会話帳シリーズ／在籍者名カード（母国語表記）
  - 『楽しい学校』【はじめての日本語編、教科編、保護者のための手引き】（大和市教育委員会）
  - 翻訳文のひな型（参考：HP「ようこそ横浜の学校へ」）
  - こどもことば絵じてん（三省堂） 小学館ことばのえじてん（小学館）
4. 編入学の面接（本冊子3ページ参照）
5. 家庭環境調査票等の作成・通学路の確認（本冊子4,5ページ参照）
6. 子どもの背景（本冊子6ページ参照）
7. 滞日の理由（本冊子7ページ参照）
8. 児童生徒の将来の予定（本冊子7ページ参照）
9. 国際教室支援シートの作成（上記6～8を記入したシート）（本冊子8ページ参照）
10. 時間割の作成
  - （学年・学級と相談してクラスの時間割から、取り出し・入り込みの時間を決める）
11. 要注意な外国にルーツを持つ児童生徒（隠れ外国人）（本冊子9ページ参照）
12. 外国につながるのある児童生徒の在籍者名簿の作成、一覧の作成（本冊子10ページ参照）
13. 教育委員会への提出書類の確認
  - 運営方針／在籍児童生徒数／時間割表／実績報告書／相談員・日本語指導員の要請
  - 翻訳の申請／ボランティア依頼書など
14. 家庭との連絡の仕方の確認（誰と連絡を取ったらよいかの確認）
15. 保健関係の翻訳文の準備（養護教諭と連絡をとる、翻訳文章は本としてまとまっている）
16. 行事に関する翻訳文の準備（『楽しい学校（保護者のための手引き）』参照）
17. 通知表「所見」の翻訳文依頼
  - （締切が早いので注意、1ヶ月前位には通訳に依頼する、担任にはそれよりも早く依頼する）
18. 卒業証書の母国語版の作成
- ◆学習に関すること
19. はじめに習得すること（本冊子11ページ参照）
20. 日本語の学習の仕方（本冊子12,13ページ参照）
21. 教科の学習の注意点（本冊子14,15ページ参照）
22. 母国語の学習・母国の学習（本冊子16,17ページ参照）
23. 国際教室での交流（本冊子18ページ参照）
24. 個別の学習記録ファイルの作成（本冊子19ページ参照）
25. 高校進学に関する基礎知識（本冊子20ページ参照）
- ◆体制づくり
26. 学級担任と確認すること（どんな支援が必要か学級担任と相談します）（本冊子21ページ参照）
27. 学校全体のかかわり（本冊子22ページ参照）
28. 通訳・学習ボランティアの確保のしかた（本冊子22ページ参照）
29. 参考文献（本冊子23ページ参照）

## ■編入学の面接

編入時は、前もって保護者、児童生徒と面接を行います。面接では、以下の事柄に留意して話をします。できる限り通訳を頼んでおくといいです。子どもを通訳とすることは適切ではありません。理由は、子どもの日本語・母国語の理解度が不明であること、日本の学校のしくみを理解していないこと、が考えられるからです。

1) 学校の出席者 … 校長・国際教室担当・担任（決まっていれば）・学年主任

★ 教育委員会が保護者、児童生徒を連れてきます。

2) 内容

① 自己紹介

② 家庭環境調査票等の項目に沿って確認（本冊子 4,5 ページ参照）

③ 経歴（本冊子 6 ページ参照）

国際支援シート（本冊子 9 ページ参照）に記入

④ 滞日の理由（本冊子 7 ページ参照）

★ 在籍学年を確認。場合によっては学年を下げることも。

⑤ 将来の予定（本冊子 7 ページ参照）

⑥ 地図による通学路・主要施設の確認

★ 学区の詳細地図を用意して、銀行、郵便局、役所、スーパー、学校で使用する物の販売店等をチェックし、簡単な説明も記入しておくとい分かりやすいです。

⑦ 学用品の確認

★ とりあえず必要な、鉛筆、消しゴム、上履き等細かい物まで、絵入りの説明書を用意しておくとい分かりやすいです。

★ 中学校では、制服、体操着、体育館シューズの説明もします。

★ すぐに購入できない場合は、学校で貸し出すことも考えて準備しておきます。

★ 教育委員会で渡された『楽しい学校』を持参するように伝えておきます。

⑧ 国際教室の概要説明

■学校要覧を使って

⑨ 日課表、時間割、簡単なきまりの説明

★ 登校時刻、下校時刻、休日等最低限のことは伝えておく。

★ 貴重品（お金、携帯・スマホ等）は持って来ないことを伝えておく。

⑩ 校内案内

★ 特に、校門から昇降口までの順路、自分のつく箱の位置、昇降口から教室までの順路、教室に近いトイレ・水道、保健室、職員室を教えます。

★ 校内地図を用意して、必要な場所をチェックすると分かりやすいです。

★ クラスは成績上位者から1組2組…ということではないことを伝えます。

⑪ 「就学援助制度」の説明

⑫ 給食および教材・行事などの費用の説明

★ 「口座」「印鑑」といった用語についても説明する。

⑬ 困ったときの、家庭から学校への連絡先（学校の電話番号、窓口は校長または教頭）の確認

⑭ 学校から家庭への連絡先の確認

⑮ 登校1日目の、日時、来る場所、持ち物、日程

## ■家庭環境調査票等の作成・通学路の確認

まずは、以下の事を知る必要があります。

できれば入学前の面接時に分かるとよいでしょう。保護者の方とゆっくり話し合いができることや、面接時には日本語の分かる方が同伴されることが多いので、情報が得やすいからです。

### 1) 氏名（フリガナ）

- ★ 指導要録には、在留カードの氏名（アルファベットおよびカタカナ）を書きます。
- ★ ゴム印は、上記の名前で作ります。フルネームを使わないと、本人が忘れてしまったり、受験に際して書くことができなかつたりします。入り切らない場合は、手書きにします。名前が苗字と名前のような2つだけでなく、3つ、4つに分かれる場合もあります。
- ★ 名簿は、アルファベットかカタカナのどちらにするか聞いておきましょう。

### 2) 性別

### 3) 通称名

- ★ 家庭でよく呼ぶ通称名を教えてください。

### 4) 生年月日・年齢

### 5) 国籍・日本での在留資格（定住、永住、家族滞在、等）

- ★ 両親の国籍も必要です。

### 6) 住所

### 7) 電話番号

### 8) 家族構成

- ★ 家族の中で日本語が分かる方を聞いておくと、連絡に便利です。

### 9) 保護者の勤務先

- ★ 勤務先で通訳のできる方がいるかどうか聞いておくと、連絡に便利です。

### 10) 家族以外の連絡者

- ★ 親類・知人で、日本語が分かる方、お迎えができる方を聞いておくと、連絡に便利です。

### 11) 日本人の知り合い

- ★ 日本人の知り合いを聞いておくと、緊急連絡に便利です。

### 12) 家庭内での使用言語

- ★ 父母で国が違う場合もあるので、家庭ではどちらが使用頻度が高いか確認します。

### 13) 通訳を頼む場合の言語

### 14) 性格（長所・短所）

### 15) 友人

### 16) 通学路

- ★ 学区外通学が多いので、通学路を知っておく必要があります。

### 17) 留意点

- ★ 宗教などの関係でできないこと。例えば、見学場所、武道、歌、食べ物 → 場合によっては給食ではなく弁当にするか確認します。あるいはしなければならぬこと。例えば、装身具、ピアスの穴 → 学校での扱いを確認します。

<例>

家庭環境調査票

氏名 (在留カード通り)				男・女	
(母国語表記)					
通称					
生年月日	年	月	日生	歳	
国籍 日本での在留資格					
住所 電話番号	〒		自宅電話： 携帯：		
家族構成	本人との関係	名前	携帯・緊急	国籍・在留資格	言語
	父				
	母				
両親の勤務先	父	電話			
	母	電話			
家族以外の連絡者 (お迎え可能な方)	電話				
	電話				
日本人の知り合い	電話				
子どもの性格	長所	短所			
子どもの友だち					
通学路					
留意点					

## ■子どもの背景

日本の学校でどのくらい意志の疎通を図ることができるのか、を知るために以下のことを聞く必要があります。

保護者の日本語習得度は、学校からの連絡がどのくらい伝わるかを知るために必要です。学校からの連絡が保護者に伝わらない場合、児童生徒が使用する学用品がそろわなかったり、必要な集金が遅れたりします。このことは、児童生徒を不安な環境に置くこととなります。時には、児童生徒が独力でそろえようとするので、家庭や学校から孤立した心境になることがあります。

- 1) 母国での在籍校・在籍年数 ★ 小学校名（在籍年数）・中学校名（在籍年数）
- 2) 母国での学年 ★ 編入する在籍学年を確認しておきましょう。学年を下げることもできます。
- 3) 母国の学校での成績 ★ 得意・不得意教科も聞いておくとよいです。
- 4) 母国語の習得度（読む・書く・聞く・話す）
- 5) 日本語の習得度（読む・書く・聞く・話す）  
★ 日本語と母国語のどちらの方が理解しやすいか？感情を表しやすいか？も聞いておきましょう。
- 6) 出身の国と地域 ★ 両親それぞれの出身地域によって来日経緯が異なることがあります。  
（例）中国の黒龍江省
- 7) 出生地および日本での在住期間  
★ 次のようなケースもあるので、詳しく聞く必要があります。  
（例1）日本で生まれ、2歳でペルーに戻り、10歳で再来日。  
（例2）ペルーで生まれ来日、5歳でペルーに戻り、12歳で再来日。
- 8) 保護者の日本在住期間  
★ 7) のようなケースがあるので、詳しく聞く必要があります。
- 9) 父親の最終学歴と母国での職業
- 10) 母親の最終学歴と母国での職業
- 11) 保護者の日本語習得度（読む・書く・聞く・話す）
- 12) 両親の離婚・再婚の有無
- 13) 母国にいる家族



## ■滞日の理由

外国人の家庭は、様々な理由で日本に滞在しています。その主な理由を知っておくことは、今後、保護者の学校への関わりを考えていく上で参考になります。家庭訪問など、通訳を介して正しく聞くことができる機会を使って、下記のどの理由に当たるのか、できるだけ把握しておきましょう。

- 1) 家庭の経済的理由
- 2) 母国の情勢
- 3) 両親の仕事の都合
- 4) 児童生徒の勉学のため
- 5) その他

例えば

ラオス・ベトナム・カンボジア … 難民、呼び寄せ  
南米 … 日系人の出稼ぎ  
中国 … 残留孤児の親類、調理師  
フィリピン … 国際結婚、国際結婚の連れ子

★ できればビザ（在留資格）の確認をしておくといいです。  
在留カードで確認できます。

## ■児童生徒の将来の予定

この件も滞日理由と同様に、保護者の教育に対する姿勢を知る上で必要なものです。また、児童生徒の学習や進路に対する考え方を話し合ったり、家庭との関わりを考えたりする時にも参考になります。

- 1) 永住
- 2) 帰国（時期）  
★ 帰国と言っても、滞日は長期化することがあるので、確定とは考えない方がよいです。
- 3) 進学
- 4) 就職

★本冊子 6,7 ページの「子どもの背景」「滞日の理由」「将来の予定」をまとめて、「国際支援シート」（本冊子 8 ページ形式例）として作成し、引き継いでいくようにするとよいでしょう。

<例>

国際支援シート

カタカナ 氏名	
母国での在籍校 在籍年数	
母国での最終学年	編入時の在籍学年
母国の学校での成績	
母国語の習得度	
日本語の習得度	
母国の出身地域	
出生地 日本での在住期間	
保護者の日本在住期間	
父親の最終学歴と 母国での職業	
母親の最終学歴と 母国での職業	
保護者の日本語習得度	
両親の離婚・再婚の有無	
母国にいる家族	
滞日の理由	
将来の予定	

## ■ 要注意な外国にルーツをもつ児童生徒（隠れ外国人）

現在のところ、「国際教室」の在籍児童生徒数として数えることができるのは、行政的には、「日本語指導を必要とする外国籍児童生徒」という条件がついています。そして、この条件を満たす子どもが「外国人児童生徒」として数えられます。

しかしながら、この条件だけで、ある程度、外国人児童生徒の支援ができていていると考えるのは、大きな間違いです。ここでは、この間違いに陥らないために、注意を要する外国にルーツをもつ子どもたちのことを、簡単に説明しておきます。

### （１）「日本語指導が必要とは」 ということか？

一般に、日本語で会話ができれば（日本語が通じていれば）、日本の学校で問題なく生活できると考えられがちです。しかしながら、言語は、大きく「社会生活言語」と「学習思考言語」に分けられ、親世代の日本語が不十分な場合、学習思考言語の獲得は容易ではないと言われています。

「日本語指導が必要」という場合に、「学習思考言語」の習得状況を踏まえて、「日本語指導の必要」の有無を検討する必要があります。

### （２）外国籍？／外国人？／外国につながる？／外国にルーツをもつ？

外国人児童生徒を対象とする場合、「外国人児童生徒」「外国籍児童生徒」「外国につながる児童生徒」「外国にルーツをもつ児童生徒」等、いろいろな呼び方があります。ここでお勧めするのは、できるだけ大きな括りとなるような呼び方です。なぜならば、括り方によっては、外国にルーツがあるけれども日本国籍をもつ児童生徒が対象とされない場合がでてくるからです。外国にルーツをもつ子どもたちは、自身が何者であるかということに直面し、日本人の子どもたちとは大きく違うアイデンティティ形成が必要となり、国籍の枠に捉われない柔軟な考え方が必要です。

学校では、日本語で、日本社会で生きていけるように、様々なことを学習するわけですが、それは、外国人の子どもにとって親世代から継承しているものとは大きく異なっていて、かれらは、日々、学校生活を送りながら、日本的なるものと、親から継承するものとの間で葛藤を抱えることとなります。外国にルーツをもつ子どもたちは、この葛藤を避けて通ることはできません。加えて、日本社会は同調圧力の強い雰囲気がありますから、「違う」ということに積極的な意味を見いだすことができないことが、これらの葛藤に拍車をかけます。

「隠れ外国人」というのは、『いちょう団地発！外国人の子どもたちの挑戦』で、柿本隆夫氏によって使われた言葉です。「外国にルーツをもつ子どもたち」は、そこに積極的な意味を見出せず、自分の名前を、日本で一般的である名前に、小学校高学年から中学校にかけて変えていくことがあります。一見したところ、日本人と変わらないように振る舞うことで、自身に降りかかる葛藤を和らげようとするのです。しかし、そのことが一層、かれらのアイデンティティ形成を困難にします。

こうした状況を、学校で、子どもの一番身近で感じ取るのが、「国際教室」担当者ではないかと考えます。一番身近な存在として、「隠れ外国人」も対象とできる広がりを作ってほしいと思います。

（例）

- ①日本の名前・日本国籍で、子どもの適応は良さそうであるが、親の日本語が流暢ではない場合
- ②国際結婚で、日常的な子どもの世話が日本人の親ではない場合
- ③日本国籍・日本の名前をもつが、外国にルーツがある親の連れ子である場合

※国際教室在籍かどうかに限らず、本冊子 10 ページのようなリストを作成することが望まれます。

年度 外国につながる児童・生徒名簿

\* 本人は日本国籍でも、外国籍の親がいる児童・生徒も記入してください。

通称名 (母国名)	性別	学級	担任	国籍	滞日年数	来日年月日 もしくは 日本生まれ	来日目的 ビザ・在留資格	保護者		日本語 指導 ○×	日本語 ホラフダフ ○×	国際教室 取り出し ○×・教科	通訳 ○× 言語	翻訳 ○× 言語	あゆみ 通信票 言語	その他 (参考になる情報)
								父 国籍 使用言語	母 国籍 使用言語							
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																

# 学習に関すること

## ■はじめに習得すること（絵、写真、映像、実物、体験を通して）

外国人児童生徒は言語も習慣も全く分からない、とても不安な状態で編入してきます。その不安が軽減されるのは、自分の言動に肯定的に反応を示してくれることです。そのためには、系統的な日本語を学ぶ前に、日本で生活を続けていくことを目的とした支援が学校の役割であり、その中心に国際教室があります。まずは、とりあえず生活するための言葉や行動を教えます。

言葉だけでは分からないので、絵、写真、映像、実物、体験などを通して具体的に習得させます。これらの事柄は、学級担任や学級の児童生徒にも伝え、受け答えができる人を増やすことが大事です。

こうした取り組みは、「日本で生き抜いていくための支援、自分の声を聞いてくれる日本人を探すこと（『外国人生徒のためのカリキュラム』清水・児島編著）」につながっていきます。

- 1) 国際教室及び学級担任の名前・呼び方
  - ★ 「〇〇せんせい」
- 2) 友達の名前・呼び方
  - ★ 「〇〇さん」「〇〇くん」「〇〇ちゃん」
- 3) 日本語によるあいさつ（母国語と比較して）
  - ★ 「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」「おねがいします」「行ってきます」「ただいま」
- 4) 否定の言語（母国語と比較して）
  - ★ 「いいえ」「分からない」「ない」 子ども同士の会話として「いやだ」「知らない」
- 5) 肯定の言語（母国語と比較して）
  - ★ 「はい」「分かった」「ある」 子ども同士の会話として「うん」
- 6) 健康状態の伝え方
  - ★ 「痛い」「頭（が）痛い」「腹（が）痛い」「熱（が）ある」「けが（を）した」「トイレ（に）行きたい」「水（を）飲みたい」
- 7) 学校の日常生活における行動の良し悪し
- 8) 学校の施設の使い方
  - ★ 職員室、トイレ、水道、昇降口・靴箱、保健室、体育館
- 9) 自分の名前を日本語で書く。
- 10) 数字の数え方
  - ★ ①0～12（時間・月・日） ②13～31（日） ③32～60（秒・分）
  - ★日本語は活用する場面で読み方が異なるので注意する。
- 11) 気持ちを表す言葉
  - ★ 「いやだ」「うれしい」「楽しい」「悲しい」「つらい」「すき」「きれい」など
- 12) 時刻・曜日の読み方
- 13) 時間割表の見方
- 14) 教科名と教科内容の簡単な説明
  - ★ 教科担任の名前と呼び方を教えておく。
- 15) 日課表の見方

## ■日本語の学習

日本語に関しては、「話す」ことに基準が置かれがちです。しかし、日常会話が滑らかにできるからといって、日本語を概ね理解しているとは限りません。この点は、特に学校が注意して子どもを観察する必要があります。

【話す】【聞く】【読む】【書く】の各分野について基礎的な学習が必要です。特に「文を読む」「文を書く」ことは、習得に時間を要します。

また、学習中に「分かった？」と尋ねると、うなずくことが多いのですが、中途半端な理解でもそうした態度を取ることも多いので、いくつかの学習を総合して判断を下さないといけません。

下記の内容は、習得の段階順に示していますが、児童生徒の状況に合わせて、組み替えたり省いたりしてもよいでしょう。

- 1) 学用品、教室にある物の名前を知る。【話す】【聞く】【読む】
  - ★ ひらがなとローマ字・母国語併記のカードを作っておくと、別の学習にも使えます。  
カードの裏に絵や写真があると用途は広がります。
- 2) 日常生活に使う物の名前を知る。【話す】【聞く】【読む】
  - ★ 衣食住・身体に関すること。実物や写真、絵など具体的に揃えられる物が分かりやすい。
  - ★ ひらがなとローマ字・母国語併記のカードを作っておくと、別の学習にも使えます。  
カードの裏に絵や写真があると用途は広がります。
- 3) ひらがな 50 音表を読み、書く。
  - ★ 50 音表は、母国語にアルファベットを使用している場合、ローマ字対応表があると、発音が分かりやすいです。
  - ★ 発音の仕方（口の開け方）の見本を見せながら教える。
- 4) ひらがな 50 音に対応した言葉を探す。【話す】【聞く】【読む】【書く】
  - ★ 「あ」のつく言葉探しをして「あ」を書く、読む。など
  - ★ ローマ字・母国語を併記しておく
- 5) 濁音、半濁音、長音、促音、拗音を読む。
- 6) 濁音、半濁音、長音、促音、拗音を書く。
- 7) ひらがなの一文を読む。
  - ★ 主語、述語のはっきりした文を例示する。
- 8) ひらがなの一文を読み、書く。
  - ★ 主語、述語のはっきりした文を例示する。

- 9) 小学校1年生国語教科書のひらがな文を読みながら、内容を知る。【話す】【聞く】【読む】【書く】
- ★ 読みながら、何が書いてあるのか、内容を丁寧に確かめ合います。
  - ★ 文中の出来事のみを取り上げて質問した方が分かりやすいです。「何がどうした。」など
- 10) ひらがなで簡単な文を書く。
- ★ 簡単な一文を書く。など
- 11) カタカナ 50 音表を読み、書く。
- 12) カタカナ 50 音に対応した言葉を探す。【話す】【聞く】【読む】【書く】
- ★ 「ア」のつく言葉探しをして「ア」を書く、読む。など
- 13) 小学校1年生国語教科書の漢字交じりの文章を読む。
- 14) 漢字を書く。
- ★ 画数の少ない漢字を例示し、意味を教えることが重要です。
  - ★ カードの裏に絵や写真があると用途は広がります。
- 15) 漢字交じりの簡単な文章を書く。
- ★ 簡単な一文を書く。など
- 16) 自分の考えを文章で表す。【話す】【聞く】【読む】【書く】

＜日本語学習全体を通して留意すること＞

- ★ 外国人児童生徒との会話を大切にしながら学習を進めます。
- ★ 外国人児童生徒にとって「助詞」は難しいので、日本語に慣れるまでは完全な正答は求めません。
- ★ カタカナは、上記の内容のように、ひらがなの学習の次に教えると分かりやすいです。

【参考教材】

- 『ひろこさんの たのしい にほんご(1)(2)』(凡人社)
- 『こども ことば絵じてん』(三省堂)
- 『小学館ことばのえじてん』(小学館)
- 『くもんの絵カードシリーズ』(公文)
- 『絵でわかるかんたんかんじ 80』(スリーエーネットワーク)
- 『絵でわかるかんたんかんじ 160』(スリーエーネットワーク)
- 『絵でわかるかんたんかんじ 200』(スリーエーネットワーク)
- 『さくぶんれんしゅうワーク』(葛西ことばのテーブル)
- 外国につながる子どもたちのための教材 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター  
[www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html](http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html)

## ■教科の学習

教科の学習は、学校生活の中で中心をなすもので、接する時間が最も長いものです。外国人児童生徒も内容を習得することに、編入当初はかなり一生懸命になります。しかし、日本語の学習を積んでも、教科には固有の学習言語が多く使われるので、理解をすることが困難な場合が多いです。そのため、徐々に、分からないことを恥ずかしがり、分かったフリをすることもあります。

それによって、理解が不足したままに進んでいってしまうことがあります。学年が上がるにつれてそれらのことは顕著に表れるようになります。

注意しなくてはならないのは、日常会話が円滑にできるようになったと見える頃です。外国人児童生徒も自信を持って話ができるように見えるので担当者も安心します。そして、その延長で教科学習にも臨んでいると錯覚します。そのため、支援が緩みがちになるのです。

この時期に大切なことは、日本語の習得状況が良好な場合、支援の割合の多くを教科学習に移行させることです。その際、できるだけ教科の進度に合わせて。少しでも授業の内容に触れることができるので、外国人児童生徒の学級への参加意識も高まるからです。

### 1. 国際教室での教科学習

#### 1) 算数・数学を中心に行う。

- ★ 算数・数学は、各国、記号が似ているので学習に取り組みやすいです。「日本の勉強が分かった」という達成感が高い学習なので、先だって学習することで自信がつきます。
- ★ 四則計算は、母国語でできていれば、それでよしとします。

#### 2) 国語の読解を随時扱う。

- ★ 国語の文章の読解は、誰もが楽しめる文章を中心に行います。例えば、「大きなかぶ」「スイミー」「たんぽぽのちえ」などです。分かりやすい上、楽しく読むことができるので、授業につなげていくことができます。
- ★ いずれの読解も、「声を出して読む」ことが終わった後は、何が書いてあったのかなどについて会話し、書かれている内容のイメージを持てるようにすることが大切です。
- ★ 文章にふりがな（ルビ）を振ると読みやすいです。

#### 3) 社会を随時扱う。

- ★ 社会科関係は、学習用語が難しく理解が困難です。図版や絵、実物など具体的な物を使えるだけ使って説明します。

#### 4) 理科を随時扱う。

- ★ 理科関係は、学習用語が難しく理解が困難です。しかし、観察・実験が多いので友達の行動を見て参加していきます。観察・実験の様子を聞き出しながら、観察・実験に関わる用語などを図版や絵、実物など具体的な物を使って説明します。

#### 5) その他

- ★ 週のどこかで今週の予定と生活状況や困っていることを確認する時間をつくりましょう。自分が置かれている状況を語ることで、学習に対する意欲も変わってきます。



## 2. 在籍学級での教科学習（学級担任・教科担任へ次のことを依頼しておくといよいでしょう）

- 1) 板書にふりがな（ルビ）を振る。
  - ★ 児童生徒の日本語の習得度に合わせて、ふりがな（ルビ）を振ります。
  - ★ 少しでも読むことができると、授業への参加の意識を高めます。
- 2) どの教科においても、今、どのような課題が出ているのかを知らせる。
  - ★ 日本語がよく分からない場合でも、その時間の授業の課題が分かると参加の意識を高めます。
  - ★ 母国語がある程度できる場合は、通訳などの支援を得て、母国語で学習課題を知らせることも有効です。
  - ★ 課題が分かると、教科書や副読本の図版や絵を使って、課題に迫ろうとします。
  - ★ 長期休業中の宿題は、個人の進度に合わせてできる所をチェックし、そこだけは必ずやるよう指示することが必要です。場合によっては、別の内容の宿題を用意してあげます。
  - ★ 作文など、課題によっては母国語で書くこともよしとします。
- 3) 得意科目を探す。
  - ★ 教科学習に慣れてきて得意科目が見つかり、学習への集中度が増します。

### ＜ 教科の学習全体を通して留意すること ＞

- ★ 教科に必要な持ち物の説明が必要です。例えば、「古新聞を持ってくる」ことの意味が分からないので、実物を見せながら、使う目的や大きさなど具体的な説明が必要です。場合によっては学校で予備を準備しておきましょう。
- ★ 提出物自体の意味が分からないことがあるので、説明が必要です。一人ではできない物は、一緒にやる等の配慮が必要です。
- ★ テスト自体の意味が分からないことがあるので、説明が必要です。テストでは、ふりがな（ルビ）、時間、場所などの配慮が必要です。また、なるべく簡単な日本語で作成することを心がけます。
- ★ あゆみ・通知表の見方、成績のつけ方（中学校）の説明が必要です。
- ★ 教科指導において、人種差別や欧米中心とならないよう配慮が必要です。

### 【 参考教材 】

母国語が分かる場合

- 『楽しい学校 教科編』（大和市教育委員会）

## ■母国語の学習・母国の学習

「母国語」と「母語」という言葉があります。「母語」は、話者にとっての第一言語で、小さい頃から慣れ親しんでおり、自分の感情を最も表しやすい言語を指します。外国人児童生徒の場合、およそ10歳以上で来日した子どもの多くの母語は、母国語と同じになります。しかし、それより小さい場合の来日や日本生まれの場合には、「母語」が「日本語」になる場合が多く見られます。この場合、出身国の言葉は、「第二言語」となりますが、親とのコミュニケーションや自分のルーツの確認のために重要な言語であり、ここではそうした言語の重要性を鑑みて「母国語」という言葉を使っています。（「母国語」は近年、継承言語という言い方も使われるようになっていきます。）

また、気をつけなければならないのは、母国語を忘れていくことと同時に、母国語を使って経験してきた内容を忘れてしまうということが起こります。日本語を獲得するにあたって、母国で経験したことを日本語で話す機会をもつことは、児童生徒のアイデンティティ形成には極めて重要です。

母国語は使う機会が少ないと忘れていきます。母国語を話すことができなくなると、家庭で、保護者は母国語で話し、子ども達は日本語で話す、という言葉のすれ違いが起こります。家庭での意思の疎通がうまくいかなくなります。学校では友人と日本語で会話をし、日本語の学習が中心となりますので、母国語がなおさら遠のきます。

また、日本語の習熟が増してくると、自分の母国を表明することに消極的になることがあります。日本で生まれた児童生徒は、母国語を知らないためか、より消極的になります。極端な場合、母国を隠すこともあります。

隠すことの最大の理由は、日本社会に対して「母国」を誇れる存在として内面化できるかどうかということにあります。そのためには、担当者が当該の国に対してどのような認識を持っているかが重要です。児童生徒の表明を急がせることはありません。日本人である担当者と外国籍である児童生徒の関係、日本社会の中での当該の国に対するまなざしに十分配慮しながら判断していくことが重要です。

児童生徒や家庭の状況にもよりますが、国際教室では年間計画の中に母国語に触れる時間を位置づける必要があります。

母国の学習では、地理的内容、歴史的内容、政治的内容など、日本の社会科の授業に相当する内容を選択するとよいと思います。その際、親のルーツ、来日の経緯などを交えて学習することが重要です。くれぐれも観光ガイドブックの内容にならないよう注意して行うことが必要です。

これらの学習では、通訳や保護者、ボランティアなどの協力が欠かせません。

### 1) 母国語の学習

- ★ 絵本やゲームを取り入れると、楽しく学ぶことができます。
- ★ 「はじめに習得すること」（本冊子 11 ページ参照）に準じた内容を、母国語と日本語で交互に学習します。
- ★ 日常のできごとを母国語で話してみます。
- ★ 日本と母国の違いなどを比較する内容を使って、自分の考えを話すことができる機会を作る方法があります。
- ★ 定期的に時間をとり、通訳者など母国のことを理解できている人に参加してもらえるとよりよいでしょう。

## 2) 母国の学習（小学校高学年～中学校）

- ★ 日本の社会科に相当する内容を選択します。
- ★ 小学校高学年・中学生では、母国の情勢、母国の歴史、親のルーツ、来日の経緯などを学ぶことで、日本での自分の立場をはっきりさせていきます。
- ★ 観光ガイドブックにならないように注意します。

### 言語に関する豆知識

人が使う言語は、その人との関係や使い方によって、いろいろな表現があります。次にあげるような言葉は、その意味とあわせて理解しておくといよいでしょう。

#### ●母語（≡継承言語）

生まれてはじめて出会い、それなしには人となることができない、またひとたび身につけてしまえばそれから離れることのできないような根源的な言葉。親が話す言語が母語になる場合が多く、親から子に引き継がれる言語（継承言語）と呼ばれることもある。

#### ●母国語

話者が国籍をもつ国で、「公用語」とされている言語を示すことが多い。母語と異なり、母子関係で言葉を理解する以前に、国家と子どもの関係を前提として言葉を理解する意図を含むとされる。

#### ●第一言語

話者が最もうまく使いこなせる言語。話者が受けた学校教育の教授言語であることが多い。

#### ●第二言語

第一言語を習得した後に、あらためて学習し使用することができるようになった言語。以降、第三言語、第四言語…と続く。

#### ●バイリンガル

二言語話者。両言語をほぼ同じぐらいに流暢に使えるバイリンガル（平衡バイリンガル、二重バイリンガル、均衡バイリンガル）。バイリンガルには、さまざまな段階があり、それぞれ名称がある。例えば、子ども時代を過ぎてからバイリンガルを獲得する達成型バイリンガルに対して、幼少期に習得する獲得型バイリンガルがある。

#### ●セミリンガル（≡ダブルリミテッド バイリンガル）

二言語話者であるが、両言語ともに語彙数が少なく、文法は不正確。言語を産出する時に意識的に考えるため、どちらの言語もぎこちなく創造性がない。思考や感情を表すのに、どちらの言語でも困難を感じる。

## ■国際教室での交流

国際教室は、日本の学校のことや日本語を学ぶ場だけではなく、外国人の児童生徒が学校における学習者の一人として自立していくことを支援する役割も担います。個人の支援から始まり、児童生徒同士のつながりや家庭への支援なども視野に入れます。

そこで、国際教室の交流は、在籍している児童生徒が楽しみ合う以外に、相互に考え合う機会として位置づけることも大事です。

日本の学校では、様々な困難に遭うことでしょうが、違う国同士の子どもたちが同じ立場に置かれたわけですから、交流を通してそれぞれが抱えている問題をそれぞれが考え合う関係づくりが望まれます。そのために、在籍している児童生徒全員で交流する時間の設定が必要です。

また、保護者も情報が少ない中で子どもたちと向き合っていかななくてはなりません。保護者も共に考え合う交流の場も設定する必要があります。交流を含めた保護者会を開くことも一つの方法です。

その他、学級担任に国際教室の学習や交流の様子を参観する機会をつくり、外国人児童生徒に対する認識を深めてもらうことも考えられます。

こうした活動が定着することで、国際教室が外国人児童生徒の拠り所となり、学校の各場面での存在感を高めていきます。

### 1) 友達の国のことを知り合う。

- ★ 料理や民族舞踊ではなく、現在の自国を語り合うことが世代を結びつけます。

### 2) 学校での問題点を話し合う。

- ★ 同じ学年ならば、学級での不明な点を教え合ったり、学年の活動にどのように参加していくとよいのか情報を交換したりします。
- ★ 滞日年数や年齢が違う場合は、日本の学校での過ごし方を教えてあげます。
- ★ 学校での悩みを相談し合います。

### 3) 保護者同士の情報交換

- ★ 学校からのお知らせの見方
- ★ 就学援助などの公的な事務手続き
- ★ 遠足などの校外学習の参加の仕方
- ★ 学校でかかる費用
- ★ 登下校の仕方
- ★ 友達の家庭との連絡
- ★ 学校への欠席連絡
- ★ 緊急時の学校からの連絡
- ★ P T Aの参加
- ★ 地域の行事への関わり方

など

<例>

学 習 記 録

月 日 ( )	( )校時 授業者 ( )
教 科 ・ 学 習 内 容	様 子
連絡事項 他	

月 日 ( )	( )校時 授業者 ( )
教 科 ・ 学 習 内 容	様 子
連絡事項 他	

## ■ 外国にルーツをもつ児童生徒のための**高校進学に関する基礎知識**

高校進学・卒業は、外国にルーツをもつ児童生徒にとって、日本社会で生き抜くためにとても重要です。アルバイトや就職活動、住居探し、役所や病院でのやりとり等、日本社会の中で様々な場面に遭遇します。そんな中で、どうしても日本語がおぼつかなかったり、理解に苦しんだりするときに、見た目や名前が外国人というだけで不本意な結果となってしまうことが多いです。全国的にみた日本人の高校進学率が毎年 100%に近い現状に対して、「外国籍」の子どもの高校進学率は 60%前後にとどまっています。また、高校に進学できたとしても通い続けることができずに中退していくことも少なくありません。高校や大学の仕組みだけでなく、小・中学校の仕組みを理解していない保護者がほとんどです。この苦労の現状を打開していくには小・中学校段階でのサポートや関係機関につなげることが必要です。

### 1) 母国語を活用した基礎知識の獲得

まず、日本語を母語としない児童生徒や保護者は具体的な情報を知らないと思って色々な資料やサポートを活用して情報提供していきましょう。特に中学 3 年生時には母国語と日本語を併記した『神奈川県「公立高校入学のためのガイドブック」』が教育委員会を經由して配布されます。中学 2 年生時でも注文できます。必要な言語を把握して取り寄せましょう。また、「日本語を母語としない人のための高校進学ガイダンス」が 9 月 10 月に県内各地で開催されます。事前に問い合わせれば母語による個別相談も対応します。

＜ガイドブック、ガイダンスに関する問い合わせ＞

神奈川県教育委員会高校教育企画課入学者選抜・定員グループ TEL:045-210-8084

### 2) 特別募集と特別な受検方法について

在留期間が通算 3 年以内の人が対象の「在県外国人等特別募集」、保護者の勤務等で 2 年以上外国に在留して帰国した日が 3 年以内の人が対象の「海外帰国生徒特別募集」のほか、特別募集だけでなく一般の選抜でも来日 6 年以内の人については、問題文のルビふり(ふりがな)、検査時間の延長(1.5 倍)、わかりやすい言葉での面接といった特別な受検方法を申請できる場合があります。

- ※1 出願する高校へ中学校長からの事前の相談と申請が必要です。共通選抜で受検するとしたら、12 月下旬までに事前の相談をする必要があります。第 5 号様式「海外からの移住者等を保護者とする志願者の受検方法等申請書」の申請が必要な場合は、1 月中旬までに申請をしましょう。
- ※2 特別募集の場合、共通選抜とは異なる願書を出願する高校へ取りに行く必要があります。また、在留カードやパスポート、住民票などで在留資格と期間を確認する必要があります。
- ※3 在留カード等に記載されている本名が通称名と異なる場合は少なくありません。調査書に両方とも記載する、試験で使用する氏名をどちらかに統一する等、中学校側での準備が必要です。

### 3) 奨学金などを活用した金銭的な準備のサポート

高校・大学・専門学校への進学を学費が調達できずに入学を断念する、中退してしまうことがあります。奨学金などを活用すれば保護者の収入抜きでも年間の費用を十分に補える場合が多いです。どんな費用がかかるのかわかりやすく説明しながら卒業までにかかる費用を一緒に見積もっていくとたより安心して進学を検討していくことができます。ただし、将来返済する義務があることも見据えながら説明していくことが必要です。また、子どもや保護者が入学に間に合うように学校と相談しながら早めに手続きするよう確認していくことも必要です。

# 体制づくり

## ■学級担任と確認すること

学級で過ごす時の留意点は、年度初め、国際教室に通う児童生徒の学級担任に集まってもらい、確認をしておくといでしょう。国際教室と密に連絡を取ることや、国際教室として支援できることも確認します。また、年に数回、担任との定例打合会を開くことができる、児童生徒の対応をより詳しく伝え合うことができます。

学級では、外国人児童生徒を仲間として意識していく集団づくりが大事です。

まずは、担任の関わりが大きな要素となります。特に、授業中の支援の仕方が、同じ学級の児童生徒の言動に影響します。支援が厚くなることで児童生徒の関わりが深くなります。

次に友人の関わりが大きく占めます。当面は教師の裁量で関わる児童生徒を選びます。外国人児童生徒が「学校生活で、今、何が必要か」について手助けしてくれるからです。

### 1) 友達づくりに気を配る。

- ★ 座席の隣や近辺に「今、何をするのか」について伝え方の上手な児童生徒を置きます。同じ地域の出身の外国人児童生徒をそばに置くと意欲的になる場合があります。ただし、そばに置くと寄り添う外国人児童生徒にとって逆効果になる場合があります。特に、自分のルーツを表出したくない、母国語に自信がない児童生徒には気をつけましょう。
- ★ グループ活動の際、外国人児童生徒の発言を聞く姿勢を持つグループに所属させます。
- ★ 行事など大勢が活動する時は「今、何をすべきか」について手助けする友人を伴に行動させます。

### 2) 学習を支援する。

- ★ 朝、1日の予定を確認し、国際教室での授業を他の生徒にも分かるように示します。
- ★ 教科書や板書にふりがな（ルビ）を振ります。
- ★ 授業の課題を伝えます。言語が不十分な時でも学習の内容を予測できます。
- ★ 授業に関連した図や写真を準備し、説明に使用します。
- ★ ノートに書く、メモを取るなど「書く」ことの準備は丁寧に行います。
- ★ 外国人児童生徒の発言をゆっくり聞きます。
- ★ 学習内容に関わって、母国の背景と比較した発言の機会をつくります。
- ★ 明日の予定や準備する物を帰宅前に確かめます。

### 3) その他

- ★ 在留カードに記載された外国人児童生徒のフルネームを知っておきます。
- ★ 緊急時の連絡方法を本人・保護者に確認しておきます。
- ★ 様々な「お知らせ」プリントは、重要点をチェックした上で丁寧に説明し、本人が理解できたか確認してから渡します。（必要なことだけメモして渡すことがよい場合があります）
- ★ 行事の際は、持ち物、日程等の確認を丁寧に行います。場合によっては、前もって持ち物を持ってこさせて確認します。
- ★ 定期的に生活状況や困っていることを確認する時間をつくります。

## ■学校全体のかかわり

### 1) 国際教室を外国人児童生徒の拠点とすること

国際教室を拠点にし、全校集会、学年集会、出前授業など多くの児童生徒が集まる機会を活用して、外国人児童生徒の活動を知ってもらうことが第一のかかわりでしょう。それは、民族舞踊の披露や料理の紹介ではなく、国際教室で学んでいる姿の紹介、学習資料の紹介、学習した成果の発表・掲示などを通して、国際教室を身近に感じてもらうことです。

これらのことを理解し支援する大人と子どもの数を、学校の中に少しでも増やしていくことが重要です。

その後、外国人児童生徒が力をつけ、自分自身を発信できるようになった時には、日本の学校での困難な点を訴えていく場を設定したりすることも大事なかかわりです。

### 2) 家庭に対する配慮

家庭に対する配慮も学校全体の取り組みです。例えば、年度始めに学級に提出する外国人児童生徒の「家庭環境調査票」等を国際教室で点検し、不備がある場合は補足します。また、学校から出す「お知らせ」には、ふりがな（ルビ）を振ることや、校外学習や避難訓練など複雑な内容の「お知らせ」には対訳文をつけることなどが考えられます。

ただし、親の母国語の力を過信しすぎず、学校で行われることは子ども自身が理解して子どもの言葉を通して親に伝えられるような配慮をすることは欠かせません。

また、保護者への連絡は、電話では通じにくく間違えて伝わる心配もあります。子どもに関する大事な話は、できる限り顔を見て話すように心がけましょう。

### 3) 全職員の中での国際教室で取り組みの共有

外国人の児童生徒に興味や関心を持つ職員は、意外と少ないのが現状です。毎学期に国際教室での学習状況とその様子を、書面にまとめて全職員に伝えるように周知しましょう。

外国人の児童生徒の複雑な背景を理解するために学校の中で研修会を開きましょう。

## < 通訳・学習ボランティアの確保の仕方 >

通訳や学習ボランティアを確保したい場合は、以下の連絡先に連絡すると便利でしょう。

★ 大和市教育委員会教育部指導室 大和市役所2F 大和市下鶴間 1-1-1

TEL : 046-260-5210 FAX : 046-263-9832

★ 公益財団法人大和市国際化協会 旧生涯学習センター北館 1階 大和市深見西 1-3-17

TEL : 046-260-5126 FAX : 046-260-5127

★ NPO 法人教育支援グループEd.ベンチャー

大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

TEL&FAX : 046-272-8980 E-mail : [toiawase@edventure.jp](mailto:toiawase@edventure.jp)



## ■参考文献

### 【全体を通して】

- 『外国人生徒のためのカリキュラム ― 学校文化の変革の可能性を探る ― 』  
(清水睦美・児島明 編著 嵯峨野書院)
- 『ニューカマーと教育 ― 学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって ― 』  
(志水宏吉・清水睦美 編著 明石書店)
- 『いちょう団地発!外国人の子どもたちの挑戦』  
(清水睦美・すたんどばいみー 編著 岩波書店)

### 【受け入れに関して】

- 『ようこそ日本の学校へ』(文部省)
- 『いっしょに学ぼう』(神奈川県教育委員会)
- 『これからの在日外国人教育』(全校在日朝鮮人(外国人)教育研究協議会 編)
- 『楽しい学校 ～ 外国人児童生徒保護者のための手引き ～ 』(大和市教育委員会)
- 『ようこそ横浜の学校へ』(横浜市教育委員会)

### 【日本語習得に関して】

- 『日本語学級<sup>1</sup> ― 初期必修の語彙と文字 ― 』(大蔵守久 著 凡人社)
- 『たのしい国語小学1年生』(麦の芽編集委員会 編集 麦の芽出版会)
- 『ACTFL-OP入門 日本語学習者の「話す力」を客観的に測る』(牧野成一他 著 アルク)
- 『ひろこさんの たのしい にほんご ‘(1)(2)’ 』(凡人社)
- 『こども ことば絵じてん』(三省堂)
- 『小学館ことばのえじてん』(小学館)
- 『くもんの絵カードシリーズ』(公文)
- 『絵でわかるかんたんかんじ80』(スリーエーネットワーク)
- 『絵でわかるかんたんかんじ160』(スリーエーネットワーク)
- 『絵でわかるかんたんかんじ200』(スリーエーネットワーク)
- 『さくぶんれんしゅうワーク』(葛西ことばのテーブル)

### 【母国に関して】

- 『もっと知りたいベトナム』(櫻井由躬雄 編 弘文堂)
- 『もっと知りたいカンボジア』(綾部恒夫・石井米雄 編 弘文堂)
- 『もっと知りたいラオス』(綾部恒夫・石井米雄 編 弘文堂)

### 【教科に関して】

- 『楽しい学校 教科編』(大和市教育委員会)

外国につながる子どもたちのための教材 (東京外国語大学多言語多文化教育研究センター)  
ウェブサイトで無料提供 [www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html](http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html)

### 【進路に関して】

- 『神奈川県「公立高校入学のためのガイドブック」日本語+翻訳版』  
(神奈川県教育委員会+NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわME-net)
- 『外国につながる生徒の高校進学サポートガイド』(公益財団法人かながわ国際交流財団)  
ウェブサイトで無料提供 <http://kifjp.org/>



2018年版 編集担当者（2018年3月現在）

- 内藤 順子 （Ed.ベンチャー副代表、小学校寺子屋コーディネーター、元小学校教諭）
- 武内 敏子 （Ed.ベンチャー事務局長、日本語教室担当）

外国人の子ども理解のための学習会担当

- 西岡 歩 （中学校教諭、NPO 法人外国人支援ネットワークすたんどばいみー）
- 前田 拓郎 （小学校教諭）

教育相談担当

- 神戸 芳子 （中学校学習支援コーディネーター、元中学校教諭）
- 篠原 弘美 （中学校教諭）
- 清水 睦美 （大学教員）
- 松永 雅文 （大和市青少年相談室）

国際教室担当マニュアル **はじめての国際教室担当** 2018年版

---

2018年3月31日発行

NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

事務局

〒242-0007

神奈川県大和市中央林間3-16-12 グリーンコーポ中央林間107

TEL&FAX 046-272-8980

E-mail [toiawase@edventure.jp](mailto:toiawase@edventure.jp)

HP <http://edventure.jp/>

---

